

市民と市長のまちかどトーク 事例説明（概要）

- 日 時：平成22年11月23日（祝）午後2時00分～午後3時30分
- 場 所：小田原ラスカ
- 参加者：約50名

生ごみサポーター 笠原久弘^{ひさひろ}さん 段ボールコンポストの紹介（手順・堆肥の使い方等）

段ボールコンポストを始めたきっかけは、生ごみを燃やす罪悪感からで、なんとか避ける方法はないかと探したら、知人から紹介されて堆肥化に取り組むようになった。

お手元に配布した資料の段ボールコンポストの作り方を見ながら聞いてほしい。

初めて段ボールコンポストの話聴いたときは不思議な気持ちになった。しかし、実際段ボールコンポストに取り組んでみたら不思議でもなんでもないことがわかった。

まず、段ボールが必要だ。玉ねぎが入っていた段ボールである。スーパーなど段ボールを貰ってくればできる。スイカやりんごなど重いものが入っていた段ボールはしっかりしているので、それを使っていただきたい。ふたは外に折り込み、ガムテープを貼っていただきたい。ガムテープを段ボールのふたに1周貼ってしまうと、温度が上がったときにここから水分が出ないのでそこに水がたまり、段ボールが非常に早く傷んでしまう。一部だけガムテープを貼ってそこに、もう1、2枚段ボールを重ねる。

中に入れる基材だが、ピートモスを入れる。通気性がよく、保水性もよい。10kgで500円前後である。もう1つは、もみがら薫炭を入れる。ピートモスは酸性で、匂いがでるので、匂いを吸収する働きがある。3：2の割合で段ボールに入れ、よくかき混ぜる。この2種類だけでは値段が張るので、カサを増すためにオガクズを入れ、また腐葉土も入れている。基材は、慣れてくると何をに入れてもよい。私は、初めて段ボールコンポストに取り組んだときは土で行っていた。腐葉土やオガクズだけでもできる。慣れてきたら、自分で工夫してほしい。街路樹の枯れ葉を基材にしても良いと思う。

基材の準備ができたら、毎日500gずつ生ごみを入れる。台所の三角コーナーがいっぱいになる位の量である。今回の市民と市長のまちかどトークには、実際に取り組んでいる段ボールコンポストを持ってきた。これは、市から2回めの配布で貰った基材で、10月11日から生ごみを入れ始めた、昨日の11月22日まで生ごみを入れた。その間、二人暮しで19kgの生ごみを入れた。かき混ぜることが段ボールコンポストを成功させるコツである。生ごみを食べる細菌がいるので、よくかき混ぜる。匂いが出るのは、段ボールをかき混ぜる回数が足りないからである。

段ボールコンポストの中に何を入れるかということ、主に野菜のクズである。魚のあらは入れても大丈夫である。魚のあらは匂いが出るということだが、台所の三角コーナーにあるあらに熱湯をかければ、匂いが取れる。

YouTube（ユーチューブ）で、「段ボールコンポスト」と入力したら、他の市が取り組んでいる映像を見ることができた。岡山の周南市では100人のモニターが取り組んでいた。その映像の中で取り組んでいる人が、「魚が非常に好きだ。以前は、魚のあらなどは匂いが出るので、生ごみを捨てる前の日しか魚を食べることができなかった。しかし、段ボールコンポストを始めたときは、毎日食べれるようになった。また、魚が安いときは魚を買い溜めし、いつでも食べられるようになった。」と言っていた。魚好きの方にはぜひ段ボールコンポストに取り組んでいただきたい。

段ボールコンポストを始めると、始めはなかなか温度が上がらなかった。毎段ボールコンポストの温度をグラフで記録に取っている。このグラフを今回この会場に持ってきた。皆さんにお見せするのでぜひ見ていただきたい。温度は40℃を超えれば上々である。温度が上がらないときは、米ヌカを入れると良い。また、天ぷらを作ったときの天かすを入れると非常に温度が上がる。すぐに段ボールコンポストの温度が上がるが、すぐに下がる。基本は生ごみがないと温度は上がらない。20℃まで温度が下がっても心配しなくても良い。グラフを見てもらうと20℃まで下がっているが、回復することがわかる。

段ボールコンポストにも終わりが来る。それがいつ来るのかは判断が難しい。どうしても温度が上がらなくなったときや生ごみが減らなくなる時は、潮時だと判断する。

できた堆肥は、そのまま使うと植物の根を傷めることもあるようだ。1、2か月は、熟成させた方がよい。10月11日からこの段ボールコンポストを始めた。その前に市から第1回めに貰った基材でできた段ボールコンポストを熟成し、野菜を育てた。大事なことは、プランターの中のお水がカラカラにならないことだ。ときどき水をあげてほしい。

生きごみ小田原プロジェクトで9月に苗が配られた。市から第1回めに貰ったの基材でもらった段ボールコンポストでできた堆肥を熟成させたものに苗を植えた。フラワーガーデンで今週コンテストがあるので、そこに育てたプランターを出す予定だ。キャベツは育ちすぎて、花を植えるプランターでは小さすぎた。ブロッコリーも大きくなりすぎたので、野菜専用の鉢に植えた方がもっとよく育つと思う。このように野菜くずによってできた堆肥が野菜をつくることでその堆肥の役目を終えることで、資源が循環することがわかる。

生ごみサポーター 大窪理香さん 段ボールコンポストの体験談

私が段ボールコンポストを始めたのは、半年前であるにもかかわらず、もうすでに生ごみサポーターというのは恐縮している。私は、ズボラに段ボールコンポストに取り組んでいる。温度を測ったり、段ボールの中をかき混ぜたことはない。実は、生きごみ小田原プロジェクトは市民の皆さんがサロンを開催していて、段ボールコンポストに取り組んでいる中で、悩みなどをいろいろと相談できる場がある。そこで、良いことを教わった。それは、毛布洗い用の大きな洗濯ネットに基材を入れ、生ごみを投入して振り回す。1回めに段ボールコンポストに取り組んだときは、一生懸命かき混ぜているとすぐに段ボールが壊れた。段ボ

ールを諦めて、洗濯ネットに入れて振り回すのを毎日行っている。先ほどお話をしてくださった笠原さんの堆肥は素晴らしくきれいな堆肥だが、私の堆肥はまだゴロゴロしたものがある。しかし、段ボールコンポストの中の生ごみは確実に減っている。ズボラな方法でも出来るということをお話したかった。

生ごみサポーター 石川桂子さん 段ボールコンポストの体験談

私は生ごみの堆肥化に触れたのは2年前である。所属している生協で生ごみ堆肥化の講習会があった。そのときは、ポリバケツで堆肥を作るという内容だった。何度も挑戦したが、虫が湧いてしまった。小田原市の広報11月1日号で段ボールコンポストの記事を見て、もう一度取り組んでみようと思い、参加した。

段ボールマジックというか、段ボールがすごいというのをそのとき感じた。初めは段ボールだと、生ごみの水ですぐに壊れてしまうのではないかと心配していたが、段ボールがすごく丈夫だということを実感した。

朝晩の2回、市から貰ったシャベルでかき混ぜている。何回か虫が湧いた。また、段ボールもボコボコになり、困ったこともあった。しかし、再度段ボールコンポストに取り組みれば良いという感覚で取り組んでいる。市から基材が定期的に配布されており、生ごみ小田原プロジェクトは素晴らしいと感じる。

生ごみサロンは、その場で「虫が出た、段ボールが壊れてうまくいかない。」などの悩みを共有・解決できる。また、段ボールではなく、発泡スチロールで堆肥を作っているなどの取り組みや工夫も話し合うことができる。

段ボールコンポストに取り組んでいただき、できるだけ多くの市民の皆さんに続けてもらいたい。

報徳小学校教頭先生 佐藤親雄^{ちかお}さん 報徳小学校の取り組み

4月から報徳小学校に着任し、生ごみを堆肥化できることを初めて知った。

堆肥化することによって良いことがある。それは、生ごみを環境事業センターで燃やすのに何億ものお金がかかるが、私たちが生ごみを堆肥化することで、そのお金を削減できる。

報徳小学校は、栢山駅と富水駅の間であり、田んぼの真ん中にある。この報徳小学校の生ごみ処理化の取り組みは3つあるということはよいことであると感じた。

1つめは、生ごみ処理機による堆肥化である。1週間に1回、火曜日に生徒たちが自宅から生ごみを持ってきて、生ごみ処理機に投入している。だいたい1回の量は、4kgから5kgくらいだ。また、火曜日と金曜日は、シルバーボランティアの方が朝地域を3か所回り、地域に置かれた生ごみを回収し、生ごみ処理機に投入している。それは、1回の量は、40kg程度である。さらに、給食から出る生ごみも投入しており、その量は、8kg程度である。

2つめは、報徳小学校で、地域から約300坪ほどの畑を借り、半分はPTA、半分は

生徒が総合学習・生活科などで様々な作物を作っている。例えば、キュウリ、トマト、玉ねぎ、サニーレタス、さつまいも、じゃがいも、なすなどの数え切れないほどの作物を作っているが、その肥料となっているのが、生ごみ処理機でできた堆肥である。とれた作物の一部は、給食にも使っている。

また、PTAでできた里芋は、12月4日に行われる芋煮会で食べることになっている。

3つめは、段ボールコンポストである。生徒たちが学校に生ごみを持ってくるのは火曜日だが、その他の曜日は段ボールコンポストに生ごみを入れるという取り組みを行っている。生徒たちが、大きくなったとき、段ボールコンポストという取り組みができるということをお知らせしたい。

久野地区自治会長 星野清治さん

久野地区の取り組み（久野地区サロン、生ごみ畑等）

小田原でサロンを始めたのは、久野地区が最初である。地域活動をしていくなかで、地域そのものが人と人との関わりを嫌う方向になっている。これをなんとか食い止めようということで、平成22年度の地域活動の重点課題、サロン活動を進めることになった。協力者を募ったところ、約20名が参加してくれた。スターティングの会合が11月12日金曜日だった。私は、サロンを英和辞典で調べたところ「楽しい団欒の場所」と書いてあった。サロンで楽しく活動を行い、なおかつ、次の活動を期待されるようなサロンにしたいと思う。

取り組んだがうまくいかなかった、このような工夫をしたなどのご意見、苦労話、自慢話ができたらいいなと呼びかけたところ、たくさんの方が集まった。テーマの話と地域の話があり、次回につながる楽しい雰囲気であった。

私は農家なので、たくさんの方の堆肥を作るのは簡単である。しかし、段ボールで堆肥を作るのは難しい。生ごみと段ボールのなかには基材と水分の関係が難しいし、生ごみなので中に酸素が入りにくい。段ボールの中に適当な隙間がほしい。隙間と水分の調整だけを気を付ければよい。決して難しいことではない。お父さんがかき混ぜて、お母さん、または、子どもさんが生ごみを投入する。段ボールコンポストで課題である、「家族円満」の関係が保てたという情報も聞いている。